

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 114

学校名・団体名	鹿児島修学館中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	高校での課題研究につながる中学での探究学習
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1 活動に至る経緯</p> <p>新学習指導要領では、「考え判断する教育」への転換の一環として、高校段階で「理数探究」「日本史探究」「世界史探究」「総合的な探究の時間」など、探究をキーワードとした科目が導入される。この転換に向けて、中高一貫校である本校では昨年度の高校1、2年生を中心に課題研究に取り組み始めた。生徒一人ひとりが興味のある分野から課題を発見することからスタートし、最終的には論文としてまとめるところを目標にしている。定期的にプレゼンテーションの場も設定し、校外のコンテストやシンポジウムに出場する生徒も増えてきた。</p> <p>しかし一方で、当該学年の生徒や教員の個人的な能力や意欲に依存しすぎていないか懸念される状況にもあった。研究テーマによっては活動時間も放課後の勤務時間外に及ぶことも少なくないため、週一回の「総合的な学習の時間」だけでは生徒一人ひとりに応じた指導が十分に出来ない。また、課題研究の基礎となる能力や技能は簡単に身に付くものではなく、中高6年間の中で計画的かつ段階的に育むカリキュラムを構築する必要がある。以上のような現状をふまえ、中学生に対して高校での課題研究につながる能力や調査技法を育む学年縦断的な体制整備を進めていくこととなった。</p> <p>2 ねらい・対象等の概要</p> <p>(1) 対象者：中学生各学年生徒（220人）</p> <p>(2) 時間：総合的な学習の時間・ロングホームルーム及び、文化祭準備時間等</p> <p>(3) ねらい：高校での課題研究につながる中学での探究学習を試行しながら、指導体制を整備する。</p> <p>3 活動時期および具体的活動内容</p> <p>(1) 通年で以下のような取組を試行した。</p> <ul style="list-style-type: none">・中学1年生は、社会のものごとに関心を持ち、「読む力」を育むためにNIEのワークシートを活用し、国語辞典等を用いて言葉の定義を調べさせた。（原則として毎週1時間総合的な学習の時間に、新聞記事や新聞社が配信しているワークシートを用いて実施。）最後の1月間は新聞づくりを行った。	

- ・ 中学 2 年生は、明治維新 150 周年や修学旅行についての調べ学習を行った。(6 月に地元鹿児島県の明治維新に関する史跡をめぐる体験学習を実施。その前後に調べ学習を行い、9 月の文化祭で展示発表。修学旅行についての調べ学習は冊子にまとめた。)
- ・ 中学 3 年では、課題研究の意義や基本についての説明を実施し、年度末に自分で選んだテーマについてのポスター発表を行った。

(2) 9 月、課題研究の先進校の一つである岡山県の中高一貫校「県立津山中学校・高等学校」を視察し、中高 6 年間の中での中学段階のカリキュラムや活動内容を伺った。特に、教員の教科担当や専門分野による研究指導の分担や、研究成果を論文集や発表などのかたちでまとめ上げる手法などを具体的に伺った。

(3) 高校生の課題研究の中間発表に中学生も参加させ、課題研究のイメージを持つ機会を設定した。

6/8 (金) 中間発表 1 (研究計画概要説明)

7/28 (土) 中間発表 2 (研究計画発表)

9/16 (日) 中間発表 3 (文化祭ステージ・ポスターでの発表)

4 実践の成果・今後の課題

高校生による発表などに触れる機会を増やしつつ課題研究につながる学習活動を行うことによって、課題研究に対する動機付け・興味付けを行うとともに、各学年で、高校での課題研究の基礎となる能力や技能を育成するためにどのような取組を行うことができるのかのヒントを得ることができた。

- ・ 中学 1 年生は、初めは新聞の読み方そのものからわからない生徒もおり、少しずつ新聞を読むことに慣れていくことで社会のものごとに関心を持つ機会が広がった。また、記事の内容について問いを立てることも行い、批判的な読み方につなげるられた。最終的には、「自分新聞」を作成し、1 年間の中でインプットとアウトプットの両方を経験させることができた。
- ・ 中学 2 年生は疑問に思った事を文献やインターネットを中心に調べ学習を行い、情報を取捨選択する力を身に付けた。特に後半はタブレットを使つての情報収集やポスター作製のコツをつかみ、慣れてきた。また、修学旅行では調べ学習の他に、グループごとで余興を披露する機会があった。相手の立場を考えてのプレゼンテーションにつながるような様子が見られたため、この機会も課題研究につなげることを意識して継続して活用できると思われた。
- ・ 中学 3 年生は次年度から本格的に始まる課題研究の意義や基本について理解を進め、一度発表を経験することで研究の難しさを実感した。特に高校での課題研究のテーマ設定の際に役立つと思われる。
- ・ 全ての学年に共通する最大の課題は、実際の具体的計画や運営が未だ学年任せになってしまう点である。今後はさらに各学年との連携をとれる体制をつくり、取組の振り返りや見直しの機会を増やしたい。
また、フォーラムに参加した国際バカロレア教育を参考にして、行事や総合学習の時間だけでなく、教科の中でどのように課題研究の基礎となる力を付けることできるのかも探っていきたい。